

新 著 紹 介

**Biology of the Giant Kelp Beds
(*Macrocystis*) in California**

WHEELER J. NORTH編

Verlag von J. CRAMER 1971

xvi+600頁, 166図, 116表 (Nova Hedwigia の別冊第32号)

DM160,一, 国内売価, 約1万8千円

W. J. NORTH 及び K. A. CLENDENNING (故人) 博士らを中心に, 1956年より, The Institute of Marine Resources, University of California (カリフォルニア大学・海産資源研究所) を根拠地として進められた Giant Kelp (*Macrocystis pyrifera* (LINNAEUS) C. AG. 和名オオウキモ) についての研究成果が集大成され, 約600頁の書となって刊行された。

内容は, 題名が示すように, Giant Kelp の生物学で, オオウキモの分類, 形態, 生理, 個体生態, 群集生態, 物質生産及び海産動物との関係などの調査研究の結果が24章にわたり, 13名の各分野の研究担当者により記述されている。各章の執筆者と題目は次のようである。

○目次, 口絵

1. W. J. NORTH : 序文とオオウキモの一般生物学 2. B. C. PARKER : 体の内部構造 3. W. J. NORTH : 個体の生長 4. K. A. CLENDENNING : 光合成と生育 5. B. C. PARKER : 体内の物質転流 6. K. A. CLENDENNING : 体の物質組成 7. M. NEUSHUL : オオウキモ属の種類 8. M. NEUSHUL : 近縁のケルプ類 9. J. C. QUAST : 生育

地の物理的条件 10. M. NEUSHUL : 生育床の光条件 11. K. A. CLENDENNING : 生育床の光条件と植物性プランクトン 12. K. A. CLENDENNING : 生育床の物質生産 13. M. NEUSHUL : ケルプ群集 14. C. E. ZOBELL : サンディエゴ海岸の海藻の漂流 15. H. L. SCOTTEN : 生育床の微生物 16. B. L. WING & K. A. CLENDENNING : 着生無脊椎動物 17. L. G. JONES : ケルプを食べる小形無脊椎動物 18. W. D. CLARKE : 生育地域のアミ類 (甲殻類) 19. R. J. GHELARDI : 付着器官の動物群集 20. D. L. LEIGHTON : 底生無脊椎動物の食害作用 21. R. M. WOOLLACOTT & W. J. NORTH : 着生苔虫類 22. J. C. QUAST : 沿岸岩礁地帯の魚類相 23. J. C. QUAST : 生育床の魚類の数と現存量 24. J. C. QUAST : 生育床の魚類の食物

低潮線下から深さ20~30mの海底にかけて大きい群落をつくって生育する巨大海藻オオウキモは, その体の長大であることでわれわれにおなじみの名であるが, 同時に沿岸帯の物質生産者, 海産動物へのすみかの提供者, あるいはアルギン酸の主原藻として, とくにわれわれが注目したい海藻でもある。

最近, より豊かな人類の生活への貢献を目指し, 地球全体の物質生産を研究する国際生物学事業計画 (IBP) が実施され, その一環として海藻の生産力の研究が課題の一つにとりあげられている。今回の NORTH 博士らによる“オオウキモの生物学”の本は, 刊行の時期の点で, またとり

あげた対象物の面で、実にタイムリーな出版物といえる。海藻類あるいは海藻と関係をもつ海産生物群集の調査研究を進める際により指針の役目を果たしてくれると思う。この分野の研究に携わるもの、あるいは興味をもつものに一読を奨めたい。

編者 NORTH 博士（カリフォルニア工科大学教授）は昨夏の国際海藻学会議で来日し、引続いて行なわれた日米合同科学セミナーにも参加されたので、日本人にはおなじみの方達も多いと思う。永年にわたって、この大きな研究プログラムの推進者であり、かつこの本の編集者となった同博士の努力は大いに称えられてよい。なお、今回刊行の本は、上記プログラムの研究成果を扱った三部作の一つであり、他の二部は

それぞれ“オオウキモと水質汚染”及び“ケルプ資源の利用”を扱っている。次の題名で刊行または印刷中である。

1. The Effects of Discharged Wastes on Kelp (1964)

The Institute of Marine Resources,
University of California 編.

申込先：Room 316, 1227 O Street,
Sacramento, California, U. S. A.

2. The Utilization of Kelp Bed Resources (In press)

Fish Bulletin series : California
Department of Fish & Game,
Sacramento, California, U. S. A.

(千原光雄, 国立科学博物館)

学 会 録 事

本学会懇談会

日本水産学会年会を機に昭和47年4月2日午後6時から、全海苔会館会議室において、本学会懇談会が開催された。会は岩本康三氏の司会により広瀬弘幸会長のあいさつで始まった。会長はあいさつのなかで、今年は創立20周年を迎えるので、会員すべての人々の意向を盛りこんだ記念事業を行ないたい、また本会の運営なども含め、どんな些細なことでも会長まで意見を書き送ってほしい、との協力要請があった。ついで、山田幸男名誉会長の音頭で、会の今後の発展を祈って乾杯し会食に移った。恒例の出席者全員の自己紹介があり、紅一点の山田珠恵氏、最長老の渡辺篤氏をはじめ、それぞれの熱のこもった抱負、若々しい夢などが語られた。宴たけなわの頃、最近

I. B. P. の熱帯アジア班の一員として、腐植酸性のペラ湖に調査に赴かれた熊野茂氏より「マレー半島の自然と人間」と題する講演を美しいスライドを觀賞し乍ら拝聴し、9時すぎ閉会した。

尚、この会の開催に際して、全海苔協会から寄付をいただいたことを付記して感謝の意を表わします。

出席者 (31名)

新崎 盛敏, 秋山 和夫, 有賀 祐勝,
千葉 尚二, 千原 光雄, 林田 文郎,
早川 光行, 広瀬 弘幸, 堀 輝三,
市村 輝宜, 庵谷 晃, 今田 克,
岩本 康三, 岩崎 英雄, 池森 雅彦,
黒木 宗尚, 金子 孝, 鬼頭 釣,
熊野 茂, 正置富太郎, 野沢 治治,
尾形 英二, 岡本 恒美, 斎藤 俊一,